
星の光り。

万里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の光り。

【Nコード】

N1149L

【作者名】

万里

【あらすじ】

「星空を見に行こう」

星空を見たくなくなった。

「星空を見に行こう」

君にそう言つと、頷いてくれた。

夕暮れの道を、二人で並んで歩く。顔を空に向けると、一番星が光っていた。それに続いて、いくつもの星が輝きだす。

夜の空気に包まれ、空は星でいっぱいになった。

「目、閉じて」

君は、いたずらそうに言った。

言われたとおり目を閉じる。その上に、君の手がかざされた気がした。

「どこまででも連れて行ってあげる」

ゆっくり目を開けると、そこは無数の光の中だった。

魔法をかけられたようだった。

地球を離れ、星々の間を潜り抜け、どんどん遠くへ進む。地球から、何億光年先の宇宙へ。一つ一つの星が光り、そこに存在していた。

何億もの歴史を生きて、その運命を背負って輝く宇宙。それを知った。だから、その深さに負けないように、君の手をしっかりと握った。

風はなく、強くて優しい光りだけがある。その中をぐんぐん進んでいく。見える星の一つ一つに物語があり、人々の願いが込められているのがわかった。

誰もが星に願っている。

まるで夢のような世界なのに、まだ覚めない。ただ、ひたすらに彼方へと進んでいく。

君が手を引いてくれる。

この宇宙が存在することの意味は、理解しづらい。けど、あの星達が回る答えは、自分達がここで生きているから。答えは、すぐそこにあった。

ゆっくり回る宇宙が、歴史を彩った宇宙が、そつと明日へと進む。未来へ、僕達を乗せていく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1149/>

星の光り。

2010年10月17日02時49分発行